

*スライドビューアー収蔵

アーカイブ新聞第739号(2014年7月4日)に「簡易スライド投影機収蔵」という記事を書いた。スライドビューアーは筆者の知る限りでも何種類かあるが、今回のスライドビューアーはもっとも簡便なもののひとつで、ルーペを通して覗くだけのもので、「ACE VIEWER」と銘盤に書かれている(写真1)。筆者らにとっては懐かしいものである。



写真1

何十年という昔になるかもしれない。学会で研究発表をする際、模造紙に数式を書いたり、解説図を書いたりして講演していた時代を知っている。筆者が講演するようになった頃には模造紙を使う人は東京大学天文学教室の堀 源一郎先生の他には記憶がない。数式、図、写真などはスライドにしてスライド投影機でスクリーンに映して発表する時代が長く続いた。その後は OHP が使われ、今ではパソコン画面をスクリーンに投影する方法が一般的である。スライドを使っていた頃はその出来栄えをチェックするためにスライドビューアーが使われた。スライドビューアーのもう一つの用途は、写真をポジフィルムで撮り、これをスライドにしたものを、個人で見て楽しむのにスライドビューアーが使われた。

デジカメの時代になり、カラー写真をポジフィルムで撮影するというような時代ではなくなった。時代の変遷を物語る歴史的遺物の一つであろう。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp